

高原水車

友の会通信 (創刊号)

「高原水車友の会」発会式開催

これまでの準備が実り、四月十二日（土）にめでたく「発会式」が開かれました。会場は、高原水車場から西へ五分ほどのところにある地元農協林支店二階大広間でした。

福岡や東京から駆けつけて下さった講師の方々を始め、発起人の方々、ご近所の方々、水車や発動機にご興味のある方々約五十人が広くて気持ちのよい会場に集まりました。司会 は川崎正視氏です。

最初にこれまで数年間にわたって高原水車場の調査に携わって来られた瀬戸内海歴史民俗資料館専門職員田井静明氏が経過を報告されました。高原水車への最初の訪問から博物館ボランティアの人達と水車場の掃除を続けたこと、文化財登録への準備をしていること、そして本日の発会式に立ち会えた

高原水車友の会
高松市六条町
高原水車場

ことをうれしく思っていると話されました。

次に水車場所有者の平田恵美と堀家みどりからは、子どもの時から生活の中に普通に水車があり、その価値を深く考える間もなく、

相続するはずの高原榮良が急逝し、専門家の方達にご意見を聞きながら、またボランティアの方々の懸命な調査活動に接し、水車保存を決意したこと、不安で前途多難な道を前にして友の会の方達に励まされていることを話しました。



そして、司会進行の川崎氏から、これまで準備会で検討を重ねてきた「高原水車友の会

趣意書」(案)と「会則」(案)が提案され、承認されました。発起人十五名と顧問六名の方を平田がご紹介しました。

役員、収支予算、会計監査が次のように決まりました。

会長 平田恵美 副会長 堀家みどり

企画委員長 川崎正視

企画委員 川崎正視・植本多寿美・

佐藤勇・十河正昭・堀家みどり・

平田恵美

収支予算

収入 50,000円

支出 通信費20,000円

会議費20,000円

その他10,000円

会計監査 森佐知子・広瀬章子

☆水車場の公開日は月末最終土曜日とする。

そして引き続き記念講演に移りました。

「水車の歴史と高原水車の価値について」

池森寛先生

(西日本工業大学名誉教授工学博士)

池森先生が高原水車に初めて立ち寄られ



たのは平成七年（一九九五）で、その時はこのようなことになるとは思ってもみなかったということでした。

先生はマイクも使わず良く響く声で、スライドで水車の定義や種類、歴史について楽しく説明されました。日本では、水を汲み上げる揚水車（現在代表的なものに朝倉の三連水車）は奈良時代に記録が見られ、中世から江戸時代にかけて途切れることなく使われ絵などに描かれているが、動力水車は飛鳥時代に顔を出す、その後の発展が確認できず、江戸時代になって初めて技術的にも大きく



イテク技術となったという話を興味深く聞きました。最盛期は幕末から明治期であり、

発展し、数も増えたこと、それは江戸時代の人口増加、食糧増産の為に動力革命がおき、水車は工夫され江戸時代のハ

昭和初期まで続いたということです。そのほか水車のデザインの多様なこと、地方色があることもおもしろい話でした。

話は高原水車の構造と仕組みの説明に及び特徴が浮彫になりましたが、再生するには搬送システムの謎解きがまだ必要だということでした。なお配付された「産業遺産としての評価・推薦理由」には 1. 歴史的背景 2. 社会的価値 3. 技術的評価 4. 類似的な遺産の有無の四項目に整理説明されていました。（別紙）

次に大石道義先生（西日本短期大学教授・緑地環境学科）から「高原水車の活用・管理への提案」のお話がありました。

一見、夢のような話に思える大石先生のお話でしたが、聞いている内に「おもしろいな」と引き込まれました。自然や人に対する細やかな心遣いが資料の隅々にあふれ出ていました。

提案のコンセプトは「人々の幸せづくりと水車場保存活用」のドッキングです。その主旨は、「水車」「水車場」の保存活用を人々と地域社会のニーズの解決（価値づくり）と結びつけ、つとめて多くの人々と一緒に連携して果たして行きましょう、というものでした。または、ローエネルギーで（換言すると、多

くの人々の少しずつの思いや力を賢明に結集して）『心豊かな生活や人々の幸せづくり』に水車・水車場を活用し、結果として、その生き生きとした保存を実現しましょうというものでした。

このテーマに沿って細かく親身な計画書が書かれ、思わず楽しく笑ってしまいました。健康・福祉・文化、教育、学術、産業観光などの社会的価値の中で団体・個人別にさまざまな活動例が示され、今後は参考になりそうです。また「高原水車場年間暦」まで提示され、例えば二月は、歴史的に高原水車取得など記念日が多いので「高原水車はじまり笑福節分祭」をやれるのでは？という案に嬉しいことですが、意外な展開にびっくりしてしまいました。

また「高原水車場敷地計画ゾーニング案例」も大石先生らしい思い切った図が示され、私たちもうかうかしてられないなと思わされました。とにかく、一部の人が無理をし





てやるのではなく、多くの友達と一緒に緩やかにやって行きなさいということのことか理解しました。

引き続き福岡県

久留米市の水車大工棟梁野瀬秀拓（のせひでひろ）氏が「高原水車修理の見通しについて」話されました。

野瀬さんは一九八一年から、「現代の名工」福岡県の水車大工中村忠幸さんに師事し、これまで二〇〇基以上の水車を造っておられます。それらは観光用の水車でなく、製粉・精米・発電など「働く水車」です。

水車作りに重要なものは、水車の型板と道具と製作方法の保存であると強調されました。水の流れと力を見て型版の原形を起こすということ。水車が回るところを想定して、羽根板に乗る力や底板を押す状態を考察して作るそうです。高原水車は他でも見られ

るように、羽根板が斜めに入っていて絞るような形になり「四方転び」と呼ばれるそうです。その地方で使われている名称には意味合いがあり、伝承によってその地方のあとの人で作れるようにすることが大事とのことでした。

水車の材料は地元の松が良いが、なかなか手に入りにくいそうです。

現在の高原水車は東側が大きく崩れていますが、あれは動かなくなった水車の下の部分が長く水につかり、そこが腐り軽くなって上が上がってきた状態であると説明されました。

今後修復は可能であるが、文化財として残すのであれば、これまでの能力を維持して動態保存にするか、形だけの保存かを考え、池森先生のご意見を入れながら考えて行きましょう。

なお、次の日、帰りに野瀬さんは高原水車の寸法を尺のメジャーで実際に測って行かれました。修理が現実味を帯びてきたことを感じた次第です。その時、昭和四十二年に修理した吉田久吉大工がきちんとした仕事をしていることを何度も口にされていたことが印象的でした。

—— 休憩 ——

すいしゃん



最後に小坂克信先生からは「今後の調査活動と報告書づくりについて」お話しがありました。

小坂先生は産業考古学会理事・水車と臼分科会代表をつとめ、東京三鷹の峯岸水車の復元に携わり、『玉川上水と分水』（一九八九年）、『立川の水車をさぐる』（一九九九年）、『三鷹の水車の歴史』など出版されています。昨年五月高原水車を推薦産業遺産に認定する際、報告をされました。

小坂先生の報告は、今後の私たちの活動方向を指し示して下さいました。

これまでに作成された報告書から『立川の歴史と風土第3集 立川の水車をさぐる』（立川市教育委員会）、パンフレット「新車（しんぐるま）のひみつをさぐるう！」（三鷹市教育委員会）狭山市文化財調査報告集第25集『山川水車場調査報告書』（埼玉県狭山市教育委員会）の章立てなど内容を紹介されたうえで、高原水車場調査報告書（試案）を呈示いただきました。その中には、歴史・敷地と建造物・水源と水利用・水車・機械装置・成果と今後の課題・聞き取り調査・水車関係資料と章立てが出来ていて、報告書全体のイメージがつかめます。

一方実際に修理作業に入ったときに必要な実測調査などの報告についてのアドバイ

スも頂きました。参考図書に『水車の水輪をつくる』（新車の水輪をつくる会）、『東京都指定有形民俗文化財 武蔵野（野川流域）の水車経営農家 修理工事報告書』（峯岸清）があげられ、高原水車の「水車の器械・機械、民具調査」（試案）が紹介されました。大まかに、「水車関係（水車器械・機械・調整具・水車の管理）」、「生業の用具（水車経営・畜産関係・農耕・運搬）」に分けられています。ここには、これまで瀬戸内海民俗資料館のみなさんが清掃と調査をされたことが生きていくと思えました。

最後に小坂先生から、今後の提案として1. 図書室・資料室づくり 2. 展示用パネルづくり 3. 看板づくり（随時） 4. National mills day に関連したイベント 5. 近隣の小学校の教育支援など活動のイメージが沸くような豊富なアドバイスを頂きました。



無事「高原水車友の会」発会式を終え、一同、農道を通り、高原水車場へ行き池森先生たちの説明で水車見学をしました。最後は懇親会でした。「発動機の会」の方達の中には高知から見えている方もおられ、精穀機の壊れた部分は発動機と共通しますから修理出来ますよと言われ、この活動はどこまで広がるのかと想像もつきませんでした。充実した、夢のような発会式になったことを心より感謝しています。（平田記）



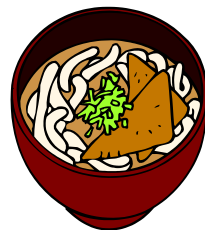


小麦はどれかな



親子水車うどん体験会 3月22日

楽しかったよ



塩水を入れて軽く混ぜます



10 角形のガンドです



上手だねー



ローラーを通すと麺の帯が出て来るよ





今は人力で回すよ



うまく切れました



紙芝居もあったよ 「ゆめみこぞう」

お知らせ

第一回水車講座

自然から見た高原水車立地の特性について

講師 出石一雄先生

(香川地理学会副会長・元紫雲中学校長)

日時 5月31日(土) 午後2時～4時

場所 高松市林町 農協林支店二階

主催 高原水車友の会

溜池見学に行ってきました

発会式の明くる日四月十三日、講師の先生方の希望で溜池見学をしました。参加者は案内の佐藤勇さん、池森先生、大石先生、小坂先生、野瀬水車大工さん、緒方先生と平田、堀家の8名でした。少し雨模様でしたが、三谷三郎池・神内池・神内上池・松尾池・坂瀬池・城池・公渕池と回りました。香川の溜池の堤防や排水施設の強さを実感しました。香南町資料館で高原水車模型も見ました。ちゃんと動いていました。

高原水車友の会

連絡先… 0877-334601

堀家



【題字 森佐知子】

カット 平田真咲

次回水車公開日は5月31日(土)、6月28日(土)です。時間は10時～15時